

我孫子市合唱祭に参加して

藤田正浩

アンサンブル・レオーネ音楽監督

我孫子市合唱祭(千葉)は1980年11月23日に開催して以降、毎年11月23日の「勤労感謝の日」に開催してきました。2020、21年は新型コロナ感染のため中止を余儀なくされましたが、今年11月23日に第41回を開催し、無事、盛会のうちに終了することができました。

私はアンサンブル・レオーネ(男声合唱)の音楽監督として、2014年11月から毎年、合唱祭に参加してきました。新型コロナ感染の影響で、長期間の活動中止に追い込まれたこと、高齢者や持病のある団員が休団や退団に追い込まれたこと等から、この3年近くは合唱団として難しい状況が続きましたが、何とか合唱祭のステージに乗ることができて一息ついているところです。

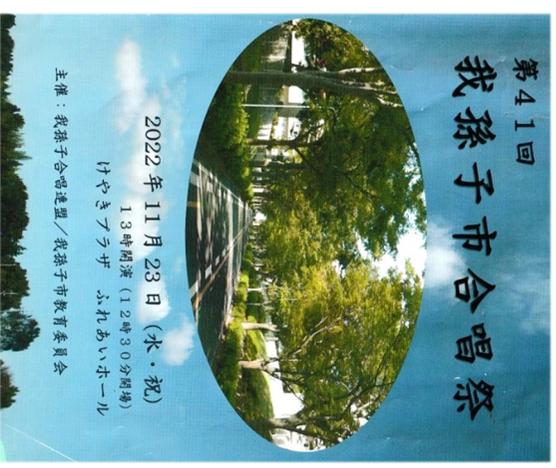


アンサンブル・レオーネの演奏「誕生」

現在、我孫子合唱連盟には、新型コロナ感染の影響でしようか、前回合唱祭開催時の19団体より3団体減の16団体が加盟していますが、合唱祭にはその中からさらに2団体が欠席、非加盟団体2団体を含めて16団体の参加でした。新型コロナ感染前に比べて、団体数・参加者数とも減っていますが、活動停止でかえって合唱に対する思いを強くしたという話も聞いています。その思いが今回の合唱祭の成功につながったのではないのでしょうか。

プログラムに掲載された合唱連盟の伊藤宏会長の「今年の合唱祭は音楽的な完成度をお聞かせするのではなく、出演する皆さんとそれを支える多くの関係者の方々の合唱に対する熱い想いを、元気がハートニーに乗せてお伝えしたいと思います。」という言葉が全てを語っているように思います。

なお、感染対策として、参加者全員の検温とマスク着用を義務付けられました。ステージでの演奏中のみマスク着用が自由でしたので、アンサンブル・レオーネはマスク無しで演奏しました。



藤田正浩 <プロフィール>

丸亀高校音楽部指揮者を皮切りに、京大グリー、京大グリーOB会などの指揮者として数々の経験を積む中、多田武彦先生から音楽全般の指導を受ける。現在、アンサンブル・レオーネ音楽監督、京大グリーOB会指揮者、ムジーク・ロイント(混声)団内指揮者、男声カルテット Four Way Stop ヂャパー。京大グリーOB会ではハーバードグリーOB とのジョイントその他で、東京、京都、長崎、仙台、高松など国内、ボストン、ニューヨーク、サンフランシスコ、上海などの海外で指揮。多田武彦作曲男声合唱組曲「みどりの水母(増補改訂版)」・「灯台の光を見つづ」、藤原義久作曲「京わらべ唄による組歌『遊びをせんや』～男声合唱、フルート、打楽器のために～」・「金屋羅船台」等を初演指揮。



アンサンブル・レオーネ ホームページより (編集部)

アンサンブル・レオーネは2018年に創立40周年を迎え、千葉県東葛地区で最も歴史のある合唱団。創立以来、地元我孫子市を中心に活発な演奏活動を行い、また、社会福祉施設や病院等への訪問演奏を行ってきた。これらの活動が評価され、2002年、(財)土屋文化振興財団より表彰され、助成金を受けた。2006年、2009年にはドイツ訪問演奏旅行を行い、三つの都市で交歓演奏会(民泊)を開き親善を果たして来た。2006年7月には、フジTV「笑っていいとも」に出演。これからも持ち味である暖かいハーモニを大切にしながら、より充実した活動を行ってほしい。男声コーラスならではの心地よいハーモニを楽しんでみませんか? しばしば行う「ミニクーショング」を通じて、団員間の意気もびつたりです。初心者歓迎。 <http://leone1.sakura.ne.jp/>